



リリース・ノート

**Adaptive Server[®] Enterprise
Cluster Edition 15.7 ESD #2**

HPUX

ドキュメント ID：DC00990-01-1572-01

改訂：2012年7月

Copyright © 2012 by Sybase, Inc. All rights reserved.

このマニュアルは Sybase ソフトウェアの付属マニュアルであり、新しいマニュアルまたはテクニカル・ノートで特に示されないかぎり、後続のリリースにも付属します。このマニュアルの内容は予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されているソフトウェアはライセンス契約に基づいて提供されるものであり、無断で使用することはできません。

アップグレードは、ソフトウェア・リリースの所定の日時に定期的に提供されます。このマニュアルの内容を弊社の書面による事前許可を得ずに、電子的、機械的、手作業、光学的、またはその他のいかなる手段によっても、複製、転載、翻訳することを禁じます。

Sybase の商標は、Sybase の商標リスト (<http://www.sybase.com/detail?id=1011207>) で確認できます。Sybase およびこのリストに掲載されている商標は、米国法人 Sybase, Inc. の商標です。® は、米国における登録商標であることを示します。

このマニュアルに記載されている SAP、その他の SAP 製品、サービス、および関連するロゴは、ドイツおよびその他の国における SAP AG の商標または登録商標です。

Java および Java 関連のすべての商標は、米国またはその他の国での Oracle およびその関連会社の商標または登録商標です。

Unicode と Unicode のロゴは、Unicode, Inc. の登録商標です。

IBM および Tivoli は、International Business Machines Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

このマニュアルに記載されている上記以外の社名および製品名は、当該各社の商標または登録商標の場合があります。

Use, duplication, or disclosure by the government is subject to the restrictions set forth in subparagraph (c)(1)(ii) of DFARS 52.227-7013 for the DOD and as set forth in FAR 52.227-19(a)-(d) for civilian agencies.

Sybase, Inc., One Sybase Drive, Dublin, CA 94568.

目次

製品の概要	1
Adaptive Server の相互運用性	1
製品の互換性	6
Replication Server とのパスワードの互換性	6
既存のアプリケーションに影響する可能性のある変更	6
Sybase Central に対する変更	7
Backup Server および IBM Tivoli Storage Manager	7
Open Client/Server	7
コマンド・ライン・バージョンの ddlgen	8
変更された機能	8
db2 サーバ・クラスのサポート	8
クラスタ環境での kill コマンドに対する変更	8
サポートされていない機能とユーティリティ	8
細密なパーミッションに対する複写管理サポート	9
15.7 ESD #2 SAP ERP 顧客向けの計画共有の推奨	10
インストールおよび設定	10
特別なインストール手順	11
設定で特に留意する点	12
EPEP アルゴリズムを使用するクライアント用に Adaptive Server を設定する	12
特別なアップグレードとダウングレードの指示	13
特別なダウングレードの指示	13
旧バージョンへのデータベース・ダンプのロード	14
アップグレード後の TIPSA のフラグ 0x4000 エラー	15

Adaptive Server Cluster Edition のインストールに関する既知の問題	15
Adaptive Server Cluster Edition のプラグインに関する既知の問題	19
Adaptive Server Cluster Edition の既知の問題	20
マニュアルの変更点	27
追加の説明や情報の入手	29
サポート・センタ	29
Sybase EBF と Maintenance レポートのダウンロード	29
Sybase 製品およびコンポーネントの動作確認	30
MySybase プロファイルの作成	30
アクセシビリティ機能	31

製品の概要

このリリース・ノートでは、Adaptive Server® Enterprise バージョン 15.7 ESD #2 に関する最新の情報を提供します。最新バージョンは Web で入手できます。

Adaptive Server Enterprise のサーバ・コンポーネントとクライアント・コンポーネントは、別々の CD または DVD に収められています。

オペレーティング・システム稼働条件については Cluster Edition のインストール・ガイドを、サポートされる追加のオペレーティング・システムについては、<http://certification.sybase.com> を参照してください。

インストール・キット

インストール・キットには、次のものが含まれています。

- サーバのメディア (CD または DVD)
- PC-Client メディア
- 使用しているプラットフォーム固有の下記のマニュアルが収められた Getting Started メディア。
 - インストール・ガイド
 - リリース・ノート (このマニュアル)

Adaptive Server の相互運用性

異なるプラットフォーム、バージョン、およびクライアント製品における他の Sybase® 製品と Adaptive Server の相互運用性について説明します。

ビッグ・エンディアン・プラットフォームとリトル・エンディアン・プラットフォーム間の相互運用性が検証されています。Windows、Linux x86-32、Linux x86-64、Sun Solaris x86-32、および Sun Solaris x86-64 は、リトル・エンディアンのプラットフォームです。IBM AIX、Linux on Power、Sun Solaris SPARC、および Itanium 版 HP-UX は、ビッグ・エンディアンのプラットフォームです。

注意： Adaptive Server Cluster Edition の新しい機能を使用するためには、使用しているクライアントでその機能がサポートされていることを確認してください。使用しているクライアントでサポートされる機能については、クライアント固有のマニュアルを参照してください。Cluster Edition の特定の機能を使用するためには、クライアントのアップグレードが必要になることがあります。

表 1 : Adaptive Server でサポートされているクライアント・プラットフォーム

クライアント名	バージョン	サポートされるプラットフォーム
Open Client™/Open Server™	15.7	<ul style="list-style-type: none"> • AIX 32 ビット版 • AIX 64 ビット版 • HP-UX IA 32 ビット版 • HP-UX IA 64 ビット版 • Linux x86 32 ビット版 • Linux x64 64 ビット版 • Linux Pseries 32 ビット版 • Linux Pseries 64 ビット版 • Solaris 32 ビット版 • Solaris 64 ビット版 • Solaris x86 32 ビット版 • Solaris x86 64 ビット版 • Windows x86 32 ビット版 • Windows x86 64 ビット版

クライアント名	バージョン	サポートされるプラットフォーム
	15.5	<ul style="list-style-type: none">• AIX 32 ビット版• AIX 64 ビット版• HP-UX 32 ビット版• HP-UX 64 ビット版• HP-UX IA 32 ビット版• HP-UX IA 64 ビット版• Linux x86 32 ビット版• Linux x64 64 ビット版• Linux Pseries 32 ビット版• Linux Pseries 64 ビット版• Solaris 32 ビット版• Solaris 64 ビット版• Solaris x86 32 ビット版• Solaris x86 64 ビット版• Mac OS X Intel 32 ビット版• Windows x86 32 ビット版• Windows x86 64 ビット版
Adaptive Server Enterprise Python 用拡張モジュール	15.7	<ul style="list-style-type: none">• AIX 64 ビット版• HP-UX IA 64 ビット版• Linux x64 64 ビット版• Linux Pseries 64 ビット版• Solaris 64 ビット版• Solaris x86 64 ビット版• Windows x86 64 ビット版

製品の概要

クライアント名	バージョン	サポートされるプラットフォーム
Adaptive Server Enterprise PHP 用拡張モジュール	15.7	<ul style="list-style-type: none"> • AIX 64 ビット版 • HP-UX IA 64 ビット版 • Linux x64 64 ビット版 • Linux Pseries 64 ビット版 • Solaris 64 ビット版 • Solaris x86 64 ビット版 • Windows x86 64 ビット版
Adaptive Server Enterprise PERL 用データベース・ドライバ	15.7	<ul style="list-style-type: none"> • AIX 32 ビット版 • HP-UX IA 32 ビット版 • Linux x64 64 ビット版 • Linux Pseries 32 ビット版 • Solaris 32 ビット版 • Solaris x86 32 ビット版 • Windows x86 64 ビット版
jConnect™ for JDBC™	6.0.x、7.0.x	<ul style="list-style-type: none"> • すべてのプラットフォーム
Sybase で提供される ODBC	15.7	<ul style="list-style-type: none"> • Linux x86 32 ビット版 • Linux x64 32 ビット版 • Linux x64 64 ビット版 • AIX 64 ビット版 • HP-UX IA 64 ビット版 • Linux Pseries 64 ビット版 • Solaris 64 ビット版 • Solaris x86 64 ビット版 • Windows x86 32 ビット版 • Windows x64 32 ビット版 • Windows x64 64 ビット版

クライアント名	バージョン	サポートされるプラットフォーム
	15.5.x	<ul style="list-style-type: none">• Linux x86 32 ビット版• Linux x64 32 ビット版• Linux x64 64 ビット版• Mac OS X Intel 32 ビット版• Windows x86 32 ビット版• Windows x64 32 ビット版• Windows x64 64 ビット版
Sybase で提供される OLE DB	15.7、 15.5.x	<ul style="list-style-type: none">• Windows x86 32 ビット版• Windows x64 32 ビット版• Windows x64 64 ビット版
ADO.NET	2.x、 4.x	<ul style="list-style-type: none">• Windows x86 32 ビット版• Windows x64 32 ビット版• Windows x64 64 ビット版
Replication Server [®]	15.5, 15.6	<ul style="list-style-type: none">• IBM AIX POWER 64 ビット版• HP-UX IA 64 ビット版• Linux x86 32 ビット版• Linux x86-64 64 ビット版• Linux on POWER 64 ビット版• Sun Solaris SPARC 64 ビット版• Sun Solaris x86-64 64 ビット版• Microsoft Windows x86 32 ビット版• Microsoft Windows x86-64 64 ビット版

クライアント名	バージョン	サポートされるプラットフォーム
	15.2	<ul style="list-style-type: none">• IBM AIX POWER 32 ビット版• IBM AIX POWER 64 ビット版• HP-UX IA 64 ビット版• Linux x86 32 ビット版• Linux x86 64 ビット版• Linux on POWER 64 ビット版• Sun Solaris SPARC 32 ビット版• Sun Solaris SPARC 64 ビット版• Microsoft Windows x86 32 ビット版• Microsoft Windows x86 64 ビット版

注意： Adaptive Server は、Sybase Control Center 3.2.7 でのみサポートされています。

製品の互換性

Adaptive Server の互換性について説明します。

Replication Server とのパスワードの互換性

Adaptive Server の異なるバージョン間で、ロールおよびログインの複写に関する互換性の問題があります。

allow password downgrade が 1 に設定されていると、パスワードのダウングレード期間中にのみ、Adaptive Server バージョン 15.0.2 以降から以前のサーバ・バージョンに、ログインを複写できます。

パスワードを使用しても、ロールは Adaptive Server 15.7 以降から以前のサーバ・バージョンに複写できません。

既存のアプリケーションに影響する可能性のある変更

既存のアプリケーションに影響する可能性のある Adaptive Server 15.7 の変更について説明します。

Sybase Central に対する変更

Sybase Central ASE プラグインは、Adaptive Server のインストール・イメージに含まれなくなりました。Adaptive Server 15.7 ESD#2 の管理には、Sybase Control Center 3.2.7 を使用します。

Sybase Central はサポートされなくなりました。ただし、必要に応じて、<http://www.sybase.com/downloads> サイトにアクセスし、[Maintenance Releases and Bug Fixes (EFBs)] をクリックすることによって、Sybase Central プラグインをダウンロードできます。

Backup Server および IBM Tivoli Storage Manager

IBM® Tivoli® Storage Manager に対するダンプおよびロードにはローカルのバックアップ・サーバを使用します。リモート・バックアップ・サーバは使用できません。

IBM Tivoli Storage Manager は、ローカル・バックアップ・サーバではないホスト・マシンで設定できます。

Open Client/Server

Open Client と Open Server に影響する変更の詳細については、Sybase Web サイトでこれらの製品の最新の『リリース・ノート』を参照してください。

新しい機能に関する情報については、『新機能ガイド Open Server 15.7 および SDK 15.7 Windows、Linux および UNIX 版』を参照してください。

Adaptive Server 拡張モジュールおよびドライバ

PHP と Python 用拡張モジュール、および Perl 用データベース・ドライバを使用すると、開発者は Adaptive Server のデータベースに対してクエリを実行できます。

PHP と Python 用拡張モジュールおよび Perl 用データベース・ドライバの詳細については、以下を参照してください。

- 『Python 用 Adaptive Server Enterprise 拡張モジュール・プログラマーズ・ガイド』
- 『PHP 用 Adaptive Server Enterprise 拡張モジュール・プログラマーズ・ガイド』
- 『Perl 用 Adaptive Server Enterprise データベース・ドライバ・プログラマーズ・ガイド』

インストールの手順については、『Software Developer's Kit/Open Server インストール・ガイド』を参照してください。

コマンド・ライン・バージョンの **ddlgen**

コマンド・ライン・バージョンの **ddlgen** 場所が変更されました。

15.7 ESD #1 以前のバージョンの Adaptive Server では、コマンド・ライン・バージョンの **ddlgen** は次の場所にありました。

- Unix - \$SYBASE/ASEP/bin
- Windows - %SYBASE%\ASEP\bin

15.7 ESD #2 以降のバージョンの Adaptive Server では、**ddlgen** は次の場所にありません。

- Unix - \$SYBASE/ASE-15_0/bin
- Windows - %SYBASE%\ASE-15_0\bin

変更された機能

Adaptive Server バージョン 15.7 での最新の機能の変更点について説明します。

詳細については、『Clusters ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

db2 サーバ・クラスのサポート

注意 Adaptive Server はサーバ・クラス db2 をサポートしていません。

db2 を使用するには、**db2** サーバ・クラスを **direct_connect** クラスにマイグレートしてください。

クラスタ環境での **kill** コマンドに対する変更

Adaptive Server Cluster Edition バージョン 15.5 ESD #2 以降では、特権的な Kerberos ユーザは **kill** コマンドを使用して、データベース・タスクがリモート・インスタンスで実行されるのを防ぎます。

サポートされていない機能とユーティリティ

Cluster Edition でサポートされていない機能について説明します。

以下のユーティリティ・プログラムはサポートされていないか、最小限のサポートしか提供されていません。

- **sqlupgrade**
- **sqlloc**

- **srvbuild**

Adaptive Server のこれらの機能はサポートされていません。

- Adaptive Server 15.5 で導入されたインメモリ・データベース。
- HP-UX 版での相互接続用 Infiniband
- Adaptive Server ディスク・ミラーリング
- 高可用性。Cluster Edition では、高可用性機能が Adaptive Server に統合されません。
- サポートされるインスタンスの最大数。Cluster Edition アーキテクチャでは、1 つのクラスターで最高 32 個のインスタンスを提供します。ただし、現在 Cluster Edition 15.5 以降は 4 インスタンスのみでサポートされていて動作が確認されています。

これらの複製機能はサポートされていません。

- マルチパス・レプリケーション
- メタデータの削減、もしくはメタデータの省略
- 複製定義の排除
- ロー内 LOB 複製
- 圧縮データの複製
- ASE Replicator を使用した複製

注意： ASE-15_0/bin ディレクトリには、**iofenceutil** と呼ばれるユーティリティがあります。これは、**qrmutil --fence_capable** の機能を複製しますが、クォーラム・デバイスは必要なく、終了コードを返します。これは **sybcluster** によって使用される内部ユーティリティで、通常使用のために設計されているわけではありません。

細密なパーミッションに対する複製管理サポート

複製管理では、細密なパーミッション機能はサポートされていません。

細密なパーミッションは、サイト固有の役割を作成したり、システム管理者およびデータベース所有者がユーザ・データにアクセスできないようにしたりすることを可能にするもので、Adaptive Server 15.7 ESD #2 で導入されました。細密なパーミッションは現在、Replication Server ではサポートされていません。つまり、システムに関連する次のストアド・プロシージャでサポートされています。

- **sp_config_rep_agent**
- **sp_help_rep_agent**
- **sp_reptostandby**

インストールおよび設定

- `sp_setrep`
- `sp_start_rep_agent`
- `sp_stop_rep_agent`
- `sp_setrepcol`
- `sp_setrepdb`
- `sp_setrepdbmode`
- `sp_setrepdefmode`
- `sp_setreplicate`
- `sp_setrepproc`
- `sp_setreptable`

15.7 ESD #2 SAP ERP 顧客向けの計画共有の推奨

SAP® ERP 顧客向けの、Adaptive Server 15.7 ESD #2 の計画共有機能の無効化

計画共有機能は、デフォルトでは無効です。これは、設定オプション **enable functionality group** がオンにされると自動的に有効化されます。計画共有機能は、次のバージョン更新が実施されるまで無効にしておくことをおすすめします。**enable functionality group** がオンになっている SAP ERP インストールでは、次を使用して計画共有機能をオフにすることができます。

```
sp_configure 'enable plan sharing', 0
```

インストールおよび設定

インストール、設定、アップグレード、およびダウングレードに関する『インストール・ガイド』への追加、または重要事項の最新情報を示します。

Adaptive Server Enterprise Cluster Edition は、専用のディレクトリにインストールすることを強くおすすめします。専用のディレクトリにインストールできない場合は、Cluster Edition を最後にインストールしてください。

警告！ Sybase 製品の古いバージョンを、それより新しい Sybase 製品が含まれている \$SYBASE ディレクトリにインストールすることはおすすめしません。たとえば、Cluster Edition の上に Replication Server® 15.0 をインストールすると、インストールの実行中に選択したオプションによっては、Cluster Edition または Replication Server のいずれかが動作しなくなる可能性があります。

特別なインストール手順

このバージョンの Adaptive Server の特別なインストールの指示について説明します。

ASE プラグインのインストール

Adaptive Server の上に ASE プラグインをインストールする前に、Adaptive Server を停止しておきます。サーバを停止しないと、インストールが失敗します。ログ・ファイルのエントリには、JRE7ファイルが開いているため、このファイルを上書きしようとしたときに問題が発生したことが記述されます。

PC クライアントのインストール

autorun を実行して PC クライアントをインストールすると、エラーが発生し、32 ビットの PC クライアントが配置されている場所に 64 ビットの PC クライアントをインストールしようとしていることが記述されます。この問題を回避するには、pcclient32 サブディレクトリの中にある **setup.exe** を実行して、PC クライアントをインストールします。

Adaptive Server プラグインのインストール

Adaptive Server とそれに関連付けられたすべてのプラグインは、同じ場所にインストールします。

サイレント・インストールの場合の応答ファイルに対する修正

Adaptive Server 15.7 ESD#2 のインストーラでは、Adaptive Server の sa ログイン、および Sybase Control Center の uafadmin ログインと sccadmin ログインについて、6 文字以上の NULL 以外のパスワードが必要です。

応答ファイルを使用して Adaptive Server のサイレント・インストールを実行する場合には、その応答ファイルには次の行を追加指定する必要があります。

```
SY_CFG_ASE_PASSWORD=<ASE sa password>
```

```
CONFIG_SCC_CSI_SCCADMIN_PWD=<Sybase Control Center admin password>
```

```
CONFIG_SCC_CSI_UAFADMIN_PWD=<Sybase Control Center agent admin password>
```

sccadmin ログインと uafadmin ログインのパスワードは、sa ログインのパスワードと同じでなくてもかまいません。

他の Sybase ソフトウェアと ECDA (Enterprise Connect Data Access) または MainframeConnect DirectConnect for z/OS のインストール

ECDA DirectConnect オプションまたは MainframeConnect™ DirectConnect™ for z/OS (DirectConnect Manager を含む) は、専用のディレクトリにインストールすることを強くおすすめします。

Adaptive Server Enterprise Cluster Edition と Sybase IQ 15.1 のインストール

Cluster Edition が含まれているディレクトリに Sybase IQ™ 15.1 をインストールすることはおすすめしません。

参照：

- Sybase EBF と Maintenance レポートのダウンロード (29 ページ)

設定で特に留意する点

このバージョンの Adaptive Server の特別な設定を示します。

EPEP アルゴリズムを使用するクライアント用に Adaptive Server を設定する

Adaptive Server は、**sp_configure** を使用する Extended Plus Encrypted Password (EPEP) ログイン・プロトコルを必要とするように設定できます。

sp_configure 'net password encryption reqd' に他の値が追加され、このサーバでは、EPEP アルゴリズムを使用している着信クライアントのみが許可されることが示されます。

設定パラメータ **net password encryption reqd** は 3 という値をサポートしており、この値は、このサーバでは、EPEP ログイン・プロトコルを使用している着信クライアントのみが許可されることが示されます。この値が 0、1、および 2 の場合も、EPEP ログイン・プロトコルをサポートするクライアントが、EPEP ログイン・プロトコルを実装した Adaptive Server と共に使用しようとしたときに、EPEP ログイン・プロトコルを使用できます。

この値を 2 または 3 に設定すると、このプロトコルを使用した最大設定接続をサポートするために、ネットワーク・メモリが増やされます。EPEP によって使用されるネットワーク・メモリ・プールに、より多くのメモリを動的に追加するには、**additional network memory** 設定パラメータを使用します。値を 3 に設定すると、KPP ハンドラは sleep ステータスになります。これは、すべての接続に新規の RSA キー・ペアを提供する必要がないためです。KPP ハンドラのステータスを調べるには、**sp_who** コマンドを使用できます。

注意： Adaptive Server では、RSA 非対称暗号化を使用する 2 つのバージョンのログイン・プロトコルがサポートされています。詳細については、『システム管理ガイド』の「ネットワーク上でのログイン・パスワードの保護」を参照してください。

特別なアップグレードとダウングレードの指示

Adaptive Server のさまざまなバージョンのアップグレード、ダウングレード、移行のための最新の情報を説明をします。

特別なダウングレードの指示

このバージョンの Adaptive Server の特別なダウングレード指示について学習してください。

`sp_downgrade_esd` を使用して、Adaptive Server 15.7 ESD #2 から、15.7 と 15.7 ESD#1 のいずれかにダウングレードします。

Adaptive Server 15.7 ESD #2 から、15.7 と 15.7 ESD#1 のいずれかにダウングレードする場合は、`sp_downgrade` システム・プロシージャを使用しないでください。代わりに `sp_downgrade_esd` を使用して、両方の Adaptive Server、および 15.7 ESD #2 にアップグレードした可能性のある任意のデータベースをダウングレードします。使用しているプラットフォームのインストール・ガイドにおける「Adaptive Server 15.7 以前のバージョンへのダウングレード」を参照してください。

`sp_downgrade_esd` を使用しても、ロー内の LOB 圧縮向けに設計されたテーブルはチェックされません

Adaptive Server 15.7 ESD #2 から 15.7 ESD #1 と 15.7 のいずれかにダウングレードしている場合は、`sp_downgrade_esd` を使用しても、ロー内の LOB カラムのあるテーブルに対してデータ圧縮と LOB 圧縮が有効になっていると、テーブルはチェックされません。

対処方法: 各データベースに対して次のクエリを手動で実行し、ロー内の LOB 圧縮テーブルがないかチェックします。このクエリでは、ロー内の LOB 圧縮向けに設計されたテーブルの名前が報告されます。

```
select distinct convert(varchar(39), o.name) as 'check these tables'
from syscolumns c, sysobjects o, syspartitions p
where o.id = c.id and o.id = p.id
and (o.sysstat3 & 28672 != 0
     or (p.ptndcompver is not null and p.ptndcompver > 0))
and ((c.lobcomp_lvl is not null and c.status2 & 131072 = 0)
     or ((o.lobcomp_lvl is not null and o.lobcomp_lvl > 0)
         or (o.sysstat3 & 2048 != 0))
     or (p.lobcomp_lvl is not null and p.lobcomp_lvl > 0))
```

```
and (c.inrowlen is not null) and (c.inrowlen > 0)
go
```

注意： ロー内の LOB 圧縮テーブルをダウングレードするための正しい手順としては、**alter table** を使用して **set compression = none** を行い、ダウングレード前に各テーブルに対して **reorg rebuild** を実行します。

sybcluster を使用した、15.7 ESD #2 から ESD #1 への Cluster Edition のダウングレード

次の手順に従って、*sybcluster* を使用し、15.7 ESD #2 から ESD #1 に Cluster Edition をダウングレードします。

1. 15.7 ESD #2 の \$SYBASE をバックアップします。
2. シングル・ユーザ・モードでクラスタを再起動します。
3. 各データベースに対して **sp_downgrade_esd** を実行します。
4. 現在の \$SYBASE の上に 15.7 ESD #1 をインストールします。

注意： SCC はインストーラから設定しないでください。

5. 15.7 ESD #2 \$SYBASE のバックアップ・コピーから SCC-3_2 を置換します。

注意： これによって、ダウングレード後に使用できるように 15.7 ESD #2 バージョンの SCC を残しておけます。

6. 15.7 ESD #2 \$SYBASE のバックアップ・コピーから SDCADMIN-15_0 を置換します。
これによって、ダウングレード後に使用できるように 15.7 ESD #2 バージョンの *sybcluster* を残しておけます。
7. 各ノードで SCC エージェントを起動します。
8. *sybcluster* を実行し、**start instance <instance 1>** を実行して、最初のインスタンスを呼び出します。
9. 最初のインスタンスに対して **installmaster** を実行します。
10. *sybcluster* を実行し、**shutdown cluster** を実行します。
11. *subcluster* を実行し、**start cluster** を実行します。

旧バージョンへのデータベース・ダンプのロード

このバージョンの Adaptive Server にデータベースをダンプし、Adaptive Server の以前の (15.x) バージョンを実行しているサーバのデータベースにこのダンプをロードすることはできません。

アップグレード後の TIPSA のフラグ 0x4000 エラー

TIPSA のフラグ 0x4000 は、15.7 より前のバージョンの Adaptive Server に設定されています。Adaptive Server 15.7 へのアップグレード後、このフラグが原因となって予期しないエラーが発生する場合があります。

TIPSA の 0x4000 フラグは、Adaptive Server 15.7 の LOB 圧縮機能によって使用されます。Adaptive Server 15.7 へのアップグレード後、このフラグが設定された LOB カラムは、圧縮された LOB カラムとして誤って扱われるため、予期しないエラーが発生します。Adaptive Server 15.7 へのアップグレード後、次のコマンドを使用してフラグの問題を解決します。

```
dbcc rebuild_text()
```

Adaptive Server Cluster Edition のインストールに関する既知の問題

インストーラに関してすでにわかっている問題と対処方法について説明します。既知の問題は、変更要求 (CR) 番号が降順に挙げられています。

CR #	説明
709431	<p>ASE 15.7 ESD#2 に RS 15.7.1 をインストールしたら、SAMPLE_RS を作成できなくなった</p> <p>Adaptive Server 15.7 ESD #2 と Replication Server 15.7.1 が同じディレクトリにインストールされていると、サンプルの Replication Server の作成は失敗します。</p> <p>対処方法: Replication Server と Adaptive Server は、同じディレクトリにインストールしないでください。</p>

CR #	説明
692496	<p>tempdb デバイスの HA 用設定</p> <p>HA 設定で使用されるように Adaptive Server をインストールするときには、tempdbdev 論理デバイスのデバイス名が重複しているために、sp_companion ストアド・プロシージャの configure コマンドが失敗する場合があります。</p> <p>対処方法: ASE のインストール中にセカンダリ・サーバを設定するとき、"tempdb デバイス" を指定しないでください(このフィールドの値を空白に設定してください)。</p> <ul style="list-style-type: none"> • いずれかのサーバで tempdb の追加領域が必要な場合は、インストールの完了後にこのサーバにログインし、alter database コマンドを使用して tempdb のサイズを増やします。 • tempdb データベースを割り当てるために追加のディスク領域が必要な場合は、disk init コマンドを使用して tempdb のデータベース・デバイスを新規作成します。 • デバイスが新規作成された場合、デバイスの論理名は 2 つのサーバ間でユニークにする必要があります。
688101	<p>Adaptive Server 15.7 をアンインストールした後で、Sybase IQ 15.4 の Sybase Central を起動することはできません。</p> <p>Adaptive Server Enterprise 15.7 と Sybase IQ 15.4 を同じディレクトリにインストールしてから Adaptive Server をアンインストールすると、IQ の Sybase Central を起動できません。Adaptive Server のアンインストールによって共有ファイルが削除されたために、この問題が発生します。</p> <p>対処方法: IQ 15.4 とともにインストールされたバージョンの Sybase Central を、Adaptive Server 15.7 のアンインストール後に起動できない場合は、次の対処方法を使用します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. \$SYBASE/shared/JavaHelp-2_0 のディレクトリ JavaHelp-2_0 を、必要に応じて再作成します。 2. \$SYBASE/IQ-15_4/java/jh.jar ファイルを \$SYBASE/shared/JavaHelp-2_0 ディレクトリにコピーします。 3. 必要に応じて、IQ プラグインを SC にリロードまたは登録します。

CR #	説明
683486	<p>Adaptive Server 15.7 の上に RMP 15.2 および RMP 15.7 をインストールすると、Sybase Central の DBISQL は使用できなくなります。</p> <p>対処方法: DBISQL を起動できるようにするには、scjview.sh java 引数に次を追加します。</p> <pre>-Disql.repositoryDirectory="\$SYBROOT/DBISQL/bin"</pre> <hr/> <p>注意: 場合によっては、ディレクトリ・パスを囲む際には一重引用符を使用します。一重と二重いずれの引用符を使用するかを判断するには、既存のファイルを確認してください。</p>
678912	<p>Adaptive Server 15.7 の上に RMP をインストールすると、Sybase Central の DBISQL は使用できなくなります。</p> <p>対処方法: DBISQL を起動できるようにするには、scjview.sh java 引数に次を追加します。</p> <pre>-Disql.repositoryDirectory='\$SYBROOT/DBISQL/bin'</pre>
611780	<p>Adaptive Server 15.5 Cluster Edition を ECDA 15.0 ESD #2 以前のバージョンと同じディレクトリにインストールすると、エラーが発生する。</p> <p>Unified Agent はこのインストール後に起動しません。また Sybase Central からクラスタを作成できません。</p> <p>対処方法: Adaptive Server Enterprise 15.5 Cluster Edition は、専用のディレクトリにインストールすることを強くおすすめします。Adaptive Server 15.5 Cluster Edition を ECDA 15.0 と同じディレクトリにインストールする必要がある場合、</p> <ul style="list-style-type: none"> • ECDA 15.0 ESD #3 をインストールした場合、Adaptive Server 15.5 Cluster Edition は RCDA インストールーションの上にインストールできます。 • バージョン 15.0 ESD #2 以前の ECDA をインストールしている場合は、次の操作を実行する必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> • 古いバージョンの ECDA をアンインストールします。 • \$SYBASE/ua ディレクトリを削除します。 • Adaptive Cluster Server 15.5 Edition をインストールします。
590282	<p>[Tab] キーおよび矢印キーを使用して、インストールまたはアンインストール・プログラムの [製品機能を選択します] ウィンドウを操作できない。</p> <p>対処方法: マウスを使用して、[インストール] ウィンドウまたは [アンインストール] ウィンドウをクリックします。そうすることで、ウィンドウにフォーカスが移され、キーボードを使用して操作できるようになります。</p>

CR #	説明
588793	<p>InstallShield Multiplatform でインストールされた古いディレクトリに Install Anywhere を使用する Adaptive Server 15.5 以降のバージョンをインストールすると、非互換性の問題が発生する可能性があります。</p> <p>これらの問題は、別々のインストーラ手法でインストールされた製品を使用している場合に発生します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Install Anywhere または InstallShield Multiplatform を使用する製品を、他のインストーラを使用してインストールされた製品の上にインストールすると、両方のインストーラに含まれている同名のファイルは、後からインストールした方のファイルで上書きされ、そのことはユーザに知らされません。 • Install Anywhere と InstallShield Multiplatform いずれかの uninstaller を実行すると、両方のインストーラによってインストールされた同名のファイルは削除され、メッセージは一切示されません。 <p>対処方法: Install Anywhere を使用する製品と InstallShield Multiplatform を使用する製品は、同じディレクトリにインストールしないでください。</p>
586169	<p>インストーラを成功させるには、マシンに gzip をインストールする必要があります。</p> <p>インストーラによって、次のように報告されます。</p> <pre data-bbox="323 822 542 847">gzip: Not Found</pre> <p>対処方法: マシンに gzip をインストールして、これがパスに含まれるようにします。</p>
583979	<p>サイレント・モードでインストールするときに、インストーラが、応答ファイルで指定されている機能名を検証しません。</p> <p>対処方法: 指定されている機能名が正しいことを確認します。</p>

Adaptive Server Cluster Edition のプラグインに関する既知の問題

Interactive SQL と Adaptive Server Enterprise プラグインに関してすでにわかっている問題と対処方法について説明します。既知の問題は、変更要求 (CR) 番号が降順に挙げられています。

CR#	説明と対処方法
713282	<p>SCC インスタンスをリフレッシュすると、ASE CE プラグインが削除される</p> <p>SYBASE/SCC-3_2/bin/sccinstance-refresh コマンドを実行して Sybase Control Center インスタンスをリフレッシュすると、Adaptive Server Cluster Agent プラグイン・ファイル <code>\$SYBASE/SCC-3_2/instances/SCC_instance/plugins/cluster_name</code> が削除されます。</p> <p>対処方法: \$\$SYBASE/SCC-3_2/bin/sccinstance-refresh を実行する前に、<code>\$\$SYBASE/SCC-3_2/instances/SCC_instance_name/plugins/cluster_name</code> ディレクトリをバックアップします。</p> <hr/> <p>注意: ファイルのコピー先もバックアップ先も、同じディレクトリにはしないでください。</p> <hr/> <p>\$\$SYBASE/SCC-3_2/bin/sccinstance-refresh の実行後に、バックアップ・ファイルをリストアして、次のファイルをコピーします。</p> <ol style="list-style-type: none"> <code>\$SYBASE/SCC-3_2/templates/plugins/com.sybase.ase.cluster/15.0.1/lib/*</code> を <code>\$SYBASE/SCC-3_2/instances/SCC_instance_name/plugins/cluster_name/lib</code> にコピーします。 <code>\$SYBASE/SCC-3_2/templates/plugins/com.sybase.ase.cluster/15.0.1/ar1.xml</code> を <code>\$SYBASE/SCC-3_2/instances/SCC_instance_name/plugins/cluster_name/ar1.xml</code> にコピーします。 <code>\$SYBASE/SCC-3_2/templates/plugins/com.sybase.ase.cluster/15.0.1/mbean-descriptor.xml</code> を <code>\$SYBASE/SCC-3_2/instances/SCC_instance_name/plugins/cluster_name/mbean-descriptor.xml</code> にコピーします。

CR#	説明と対処方法
709646	<p>SCC エージェントを認証できない</p> <p>SCC 3.2.7 でセキュリティ・サービスが変更されたため、Adaptive Server プラグインにあった次の関連機能が除去されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Roles Folder] ウィンドウと [Role Properties] ウィンドウにおける、Adaptive Server から Unified Agent への役割のマッピング。 • [Server and ASE Plug-in Properties] ウィンドウにおける Unified Agent の操作および属性 ([Preferences] ページの [Show agent attributes and operations] チェック・ボックス)。 • [Server Properties Agent] ページ上の [Authentication] および [Security Modules]。
693548	<p>新しいクラスタをエージェント対応にはできません。</p> <p>ASE プラグインを使用してクラスタを作成すると、クラスタはエージェント対応として表示されません。</p> <p>対処方法: ASE plug-in を停止し、再起動します。</p>

Adaptive Server Cluster Edition の既知の問題

Adaptive Server Cluster Edition に関する既知の問題とその対処方法について説明します。既知の問題は、変更要求 (CR) 番号が降順に挙げられています。

システム問題のレポートである SPR (System Problem Report) と、修正済みの問題のレポートである CPR (Closed Problem Report) は、Adaptive Server Enterprise に含まれなくなりました。解決済みの問題については Web サイトで検索できます。

[Support] > [Services] > [Solved Cases] をクリックしてください。

CR #	説明
714061	<p>online reorg rebuild</p> <p>online reorg rebuild コマンドの実行後、systabstats テーブルの <i>forwrowcnt</i> カラムにおいて転送されるローの数がゼロ設定されません。</p> <p>対処方法: テーブル上で、online reorg rebuild の実行後に update statistics を実行します。</p> <p>の実行後、systabstats テーブルの <i>forwrowcnt</i> カラムが変化しない</p>

CR #	説明
713855	<p>sybmigrate を使用して Adaptive Server のバージョン 12.5.4 から 15.0 をバージョン 15.7 ESD #2 に移行すると、例外が発生する</p> <p>ソース・サーバの sysusers テーブルに存在している役割とターゲット・サーバの sysusers テーブルに存在している役割の間に整合性がないため、例外が発生します。</p> <p>対処方法:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ソース・サーバとターゲット・サーバで次のクエリを実行します。 <pre>select u.* from sysusers u, sysssrvroles r where u.name = r.name and r.srid < 31 order by u.uid</pre> 2. ソース・サーバとターゲット・サーバから得られた上記のクエリの結果を比較します。 3. ソース・サーバで、クエリから返されたローを master.dbo.sysusers テーブルに挿入します。これらのローに含まれるサーバの役割は、ターゲットの sysusers テーブルには存在していますが、ソースの sysusers テーブルには存在していません。 4. sybmigrate -m setup を実行します。 5. 手順3で挿入したものと同一ローを、ソースの master.dbo.sysusers から削除します。 <p>たとえば、Adaptive Server 15.0 から Adaptive Server 15.7 ESD #2 に移行するとします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ソース・サーバとターゲット・サーバで次のクエリを実行します。 <pre>select u.* from sysusers u, sysssrvroles r where u.name = r.name and r.srid < 31 order by u.uid</pre> このクエリは、ソースの master.dbo.sysusers テーブルに1つのロー (-2, 16398, 16398, 'keycustodian_role', NULL) を挿入する必要があることを示しています。 2. ソース・サーバで次の SQL を実行します。 <pre>use master exec sp_configure 'allow updates to system tables' 1 insert sysusers values (-2, 16398, 16398, 'keycustodian_role', NULL) exec sp_configure 'allow updates to system tables', 0</pre> 3. sybmigrate -m setup を実行します。 4. ソース・サーバで次の SQL を実行します。 <pre>use master exec sp_configure 'allow updates to system tables' 1 delete sysusers where name = 'keycustodian_role'</pre>

CR #	説明
	<pre>exec sp_configure 'allow updates to system tables', 0</pre>
713631	<p>降順キーと並行してインデックスを作成すると、エラー 832 が発生して失敗する場合があります</p> <p>場合によっては、WITH CONSUMERS=number オプションを使用して並列モードでインデックスの作成を実行し、そのとき設定パラメータ enable functionality group がオンになっていると、Adaptive Server では次のエラーが生成されることがあります。</p> <p>エラー 832: オブジェクト <table name> の sdes に、論理ページ 2344 を保持しているバッファ 0x4e498f68 を配置できません。補助的に保持する sdes の中に余裕はありません。</p> <p>以下は、エラーを生成する可能性のあるコマンドの例です。</p> <pre>1> create index ind on tab(a desc,b, c) with consumers = 3 2> go</pre> <p>対処方法: これは、データの破損にはつながらない内部エラーです。このエラーが発生しないようにするために、トレースフラグ 549 を使用することもできます。</p>
713464	<p>降順キーと並行してインデックスを作成すると、エラー 1503 が発生して失敗する場合があります</p> <p>場合によっては、WITH CONSUMERS=number オプションを使用して並列モードでインデックスの作成を実行し、そのとき設定パラメータ enable functionality group がオンになっていると、Adaptive Server では次のエラーが生成されることがあります。</p> <pre>Msg 1503, Level 20, State 2:Line 1:Sort Internal Error: The Root page of right/left sub-index tree is missing. Command has been aborted.</pre> <p>以下は、エラーを生成する可能性のあるコマンドの例です。</p> <pre>1> create index ind on tab(a desc,b, c) with consumers = 3 2> go</pre> <p>対処方法: これは、データの破損にはつながらない内部エラーです。このエラーが発生しないようにするために、トレースフラグ 549 を使用することもできます。</p>

CR #	説明
713189	<p>sybcluster を使用して XML 入力ファイルからインスタンスを追加しようとすると失敗する</p> <p>Adaptive Cluster に補助サーバ (xpserver または backupserver) を設定している場合、XML 入力ファイルを使用して sybcluster ツールからインスタンスを追加すると、入力エラーが発生します。この入力エラーは、XML 入力ファイルを検証しようとすると発生します。</p> <p>対処方法: クラスタ・サーバに補助サーバを設定している場合、sybcluster を使用してクラスタに新規インスタンスを追加するには、対話型モードを使用します。</p>
712783	<p>Cluster Edition では、MDA FDP テーブルに対する複数のクエリによって同じローが返される</p> <p>Adaptive Server の Cluster Edition サーバで、モニタリングおよび診断の FDP テーブルに対してクエリが実行されると、複数の結果セットで同じローが返される場合があります。</p> <p>対処方法: なし。</p>
711328	<p>sybcluster を使用して対話型モードでインスタンスを追加しようとすると失敗する</p> <p>対話型モードを使用しているときには、既存のクラスタの新規ノードにインスタンスを追加すると、新規の tempdb デバイスに入力されている場合は、無限ループが発生します。この無限ループは、tempdb デバイスのパスを入力するためのプロンプトです。</p> <p>対処方法: セッションを終了し、sybcluster を再起動します。インスタンスを追加するには、sybcluster プロンプトで「Y」と入力して、Cluster Agent プラグインを再利用します。</p>

CR #	説明
696072	<p>一部の Cluster Edition 設定では、データベースまたはデータベース内のテーブルの複写中、まれに Adaptive Server 624 および 69x エラーが発生する場合があります。</p> <p>アクティブ/アクティブまたはアクティブ/パッシブのクラスタ設定では、RepAgent がクラスタの単一ノードでのみ実行されるように設定することができます。まれに、最新のイメージが別のノードにあるにもかかわらず、RepAgent がディスクにあるデータベース・ログ・ページの古いイメージを読み込むと、エラーが発生する場合があります。</p> <p>対処方法: Sybase では次の作業をおすすめします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • アクティブ/パッシブ設定 - データとログ・ページが RepAgent と同じノード上にあるように RepAgent をアクティブ・ノードで実行します。 • アクティブ/アクティブ設定 - ログ・ページの破損と 69x エラーを防ぐために、16872 トレース・フラグで Adaptive Server を起動します。ただし、このフラグを使用すると、サーバのパフォーマンスが低下します。
695625	<p>次のメッセージが、Adaptive Server Enterprise に接続している Open Client アプリケーションによってレポートされる場合があります。</p> <pre>ct_send():network packet layer:internal Client Library error:State error:trying to write when connection is expecting a read.</pre> <p>このメッセージは、Kerberos メッセージの機密保持サービスがオンの場合、レポートされることがあります。</p> <p>対処方法: 機密保持サービスをオフにして、サーバに再度接続します。</p>
694912	<p>sybcluster ローカライズ・ユーティリティは、適切に機能せず、例外が発生します。</p> <p>\$SYBASE/SYBASE_ASE/locales ディレクトリにサーバ関連のロケール以外のファイルまたはディレクトリが含まれている場合、sybcluster ローカライズ・ユーティリティは適切に機能しません。関連のないファイルがロケール・ディレクトリにある場合、ローカライズ・コマンドは停止され、初期段階で例外が発生します。関連のないディレクトリがロケール・ディレクトリにある場合、charset 選択メニューは正常に表示されず、後のプロセスでローカライズが停止される可能性があります。</p> <p>対処方法: ローカライゼーションに関連のないファイルやディレクトリを \$SYBASE/SYBASE_ASE/locales ディレクトリに置かないでください。</p>
684556	<p>¥バージョン 15.7 で導入された select for update セマンティックは、データページロック・テーブルをサポートしていません。</p> <p>select for update のサポートは、データロー・ロック・ページのみが存在します。</p>

CR #	説明
680041	<p>ループバック・サーバの <code>srvnetname</code> カラムによって定義されたサーバ・ネットワーク名の値は、クラスタの名前であることが必要です。</p> <p><code>sp_opt_querystats</code> ストアド・プロシージャが正常に実行されるために、ループバック・リモート・サーバの <code>srvnetname</code> カラムの値は、クラスタ・インスタンスの名前でなく、クラスタ <code>interfaces</code> ファイルにあるクラスタの名前であることが必要です。</p> <p>対処方法: ループバック・リモート・サーバの <code>srvnetname</code> カラムがクラスタの名前であることを確認してください。</p>
615890	<p><code>pca_jvm_netio</code> を使用して RMI ソケット操作を無効にできない。</p> <p>RMI ソケットは、手動で無効にしても実行しても、引き続き機能します。</p> <pre data-bbox="323 597 915 621">sp_jreconfig "disable", "pca_jvm_netio"</pre> <p>結果的に、Java RMI クライアントは、ネットワークを介して機能を実行するために、リモート RMI サーバに引き続き接続します。</p> <p>対処方法: 未使用の RMI クラスがあれば、データベースから削除します。デフォルトでは、<code>pca_jvm_netio</code> は有効です。</p>
615204	<p><code>enable DTM</code> が設定されている場合、分散型のリカバリ機能は無効となり、すべてのデータベースは、クラスタの別インスタンス上ではなく、クラスタ・コーディネータ上でのみリカバリされます。</p> <p>対処方法: なし。</p>
595923	<p><code>transfer table</code> には次のような 2 つの既知の問題があります。</p> <ul data-bbox="323 1013 1170 1234" style="list-style-type: none"> • <code>ignore_dup_key</code> プロパティを使用しているユニークなインデックスを作成するときには、テーブルにすでに存在しているキーを持つローをインポートするとエラーが発生し、インポートはアボートします。これは、<code>bcp</code> 文または通常の <code>insert</code> 文を使用して重複キーが挿入される場合とは違います。そのような場合は、ローが破棄されトランザクションが続行するからです。 • <code>insert</code> トリガが存在していても、<code>transfer table...from</code> を通じてデータが挿入されたときには、そのトリガは起動されません。 <p>対処方法: なし。</p>

CR #	説明
595859	<p>Java タスクの実行後に、追加のエンジンを手動でオンラインにすると、単一エンジンの Adaptive Server が応答しなくなることがある。</p> <p>単一エンジンで実行中の Adaptive Server は、Java を使用するタスクの実行時に、追加のエンジンを手動でオンラインにするとすぐに応答を停止するか、または、接続されたクライアントが無期限にブロックするか、スタック・トレースを生成するか、処理を実行しなくなることがあります。この問題は、HP-UX の市販されている既成の Java 仮想マシンの問題のために発生します。</p> <p>対処方法: Adaptive Server を起動するときには常に、2 台以上のエンジンを設定しておきます。こうしておけば、HP-UX の市販されている既成の JVM は、用意されているうちで最もエンジン番号の大きなものを自動的にターゲットにできます。</p> <p>また、Adaptive Server では、HP-UX の市販されている既成の JVM のターゲットでエンジン 0 をターゲットにするような設定オプションはいっさい設定しないでください。</p>
551972	<p>HP-UX でデータベースの Java を使用してファイルを作成すると失敗する。</p> <p>HP-UX での既知の問題のために、作業ディレクトリのパーミッション・マスクが 0777 またはそれと同等に設定されている場合を除き、データベース機能の Java を使用してファイルを作成すると失敗します。</p> <p>対処方法: 作業ディレクトリのマスクを 0777 に設定します (これはファイル・システムの物理ディレクトリのパーミッションと同じではありません)。物理ディレクトリには、そのディレクトリに適した任意のパーミッション・マスクを設定できます。)この設定は、sybpcidb 設定プロパティにのみ使用します。この場合、JVM 内からの特定のアクションを許可または禁止するマスクを指定して作業ディレクトリを設定できます。add コマンドまたは update コマンドのいずれかを使用してマスクを適用します。次に例を示します。</p> <pre data-bbox="323 1100 1170 1124">sp_jreconfig 'add', pca_jvm_work_dir, '/some/path(ugo=rwx)'</pre> <p>または</p> <pre data-bbox="323 1182 1130 1230">sp_jreconfig 'update', pca_jvm_work_dir, '/old/path', '/newpath(ugo=rwx)'</pre>

CR #	説明
483651	<p>診断共有メモリ・ダンプの実行時に誤ったクラスタのフェールオーバーが生じることがある。</p> <p>残りのクラスタで診断共有メモリ・ダンプを実行している間にインスタンスを起動すると、起動中のインスタンスが誤ってクラスタ・テイクオーバーを実行する場合があります。これは、automatic cluster takeover が 1 に設定されているか、--cluster_takeover オプションがデータ・サーバに渡される場合にのみ発生します。i/o fencing を有効にしていない環境では、これによりデータ破損が発生する可能性があります。</p> <p>対処方法: 診断共有メモリ・ダンプの実行時には、インスタンスを起動しないでください。automatic cluster takeover を 0 に設定します。</p>
478875	<p>Adaptive Server プラグインで、接続されたインスタンスを削除できず、インスタンスが停止するとすぐに接続が失われる。</p> <p>対処方法: 削除するインスタンスを停止する前に、クラスタ内の別のインスタンスに接続します。</p>

マニュアルの変更点

Adaptive Server Cluster Edition でリリースされたマニュアルの更新情報、修正内容、変更点を確認してください。

- 『新機能ガイド、バージョン 15.7、ESD #2』、ハッシュベースの更新統計『新機能ガイド』では、**update statistics** 設定パラメータの **hashing** について説明します。これは、ハッシュベースの統計を Adaptive Server が収集できるようにするものです。**hashing** オプションの値の範囲は次のとおりです。

- off - ハッシュを行わない
- on - すべてのカラムに対してハッシュを行う
- partial - 低いユニークな件数カラムに対してのみハッシュを行う
- デフォルト - off

このオプションに 3 つのパラメータが必要であることを示す例が、このマニュアルに記載されていません。

次は、ハッシュ・オプションを使用した **update statistics** の使用例です。

```
sp_configure 'update statistics hashing', 0, 'on'
```

- 『システム管理ガイド』 - **lock timeout pipe active**

lock timeout pipe active のデフォルト値と値の範囲について、Adaptive Server Enterprise 15.7 の『システム管理ガイド』に記述されていた内容は不正確です。

このマニュアルでは現在、次のように記述しています。

デフォルト値は 1 (off) で、値の範囲は 0 (on)、1 (off) です。

マニュアルの変更点

正しい値は次のとおりです。

デフォルト値は 0 (off) で、値の範囲は 1 (on)、0 (off) です。

- 『システム管理ガイド』 - 特定の役割の maximum failed logins の設定
このマニュアルでは、役割の maximum failed logins を設定する例として、不正確な内容が記述されています。そこでは、次のような例が記述されています。

```
create role intern_role with passwd "temp244", maximum failed logins 20
```

正しくは次のようになります。

```
create role intern_role with passwd "temp244", max failed_logins 20
```

- 『システム管理ガイド』 - 特定の役割の maximum failed logins の設定
このマニュアルでは、役割の maximum failed logins を設定する例として、不正確な内容が記述されています。そこでは、次のような例が記述されています。

```
create role intern_role with passwd "temp244", maximum failed logins 20
```

正しくは次のようになります。

```
create role intern_role with passwd "temp244", max failed_logins 20
```

- 『システム管理ガイド』 - 特定のログインの maximum failed logins の変更
このマニュアルでは、ログインの maximum failed logins を変更する例として、不正確な内容が記述されています。そこでは、次のような例が記述されています。

```
alter login joe max failed attempts 40
```

正しくは次のようになります。

```
alter login joe modify max failed attempts 40
```

- 『システム管理ガイド』 - 特定の役割の maximum failed logins の変更
このマニュアルでは、役割に対するオーバーライドを削除する例として、または役割の maximum failed logins を変更する例として、不正確な内容が記述されています。"physician_role" に対する maximum failed logins を 5 に変更する例は、正しくは次のようになります。

```
alter role physician_role set max failed_logins 5
```

すべての役割の maximum failed logins に対するオーバーライドを削除する例は、正しくは次のようになります。

```
alter role "all overrides" set max failed_logins -1
```

- サードパーティへのライセンス供与の更新
サード・パーティ・ライセンスの詳細の最近の更新については、無料ダウンロードの条項ドキュメントを確認してください。ドキュメントは、次から入手できます。http://www.sybase.com/softwarelicenses/third_party_legal

追加の説明や情報の入手

Sybase Getting Started CD、Sybase Product Manuals Web サイト、オンライン・ヘルプを利用すると、この製品リリースについて詳しく知ることができます。

- Getting Started CD (またはダウンロード) – PDF フォーマットのリリース・ノートとインストール・ガイド、その他のマニュアルや更新情報が収録されています。
- (<http://sybooks.sybase.com/>) にある製品マニュアルは、Sybase マニュアルのオンライン版であり、標準の Web ブラウザを使用してアクセスできます。マニュアルはオンラインで参照することも PDF としてダウンロードすることもできます。この Web サイトには、製品マニュアルの他に、EBFs/Maintenance、Technical Documents、Case Management、Solved Cases、Community Forums/News groups、その他のリソースへのリンクも用意されています。
- 製品のオンライン・ヘルプ (利用可能な場合)

PDF 形式のドキュメントを表示または印刷するには、Adobe の Web サイトから無償でダウンロードできる Adobe Acrobat Reader が必要です。

注意： 製品リリース後に追加された製品またはマニュアルについての重要な情報を記載したさらに新しいリリース・ノートを製品マニュアル Web サイトから入手できることがあります。

サポート・センタ

Sybase 製品に関するサポートを得ることができます。

組織でこの製品の保守契約を購入している場合は、サポート・センタとの連絡担当者が指定されています。マニュアルだけでは解決できない問題があった場合には、担当の方を通して Sybase 製品のサポート・センタまでご連絡ください。

Sybase EBF と Maintenance レポートのダウンロード

EBF と Maintenance レポートは、Sybase Web サイト、または SAP® Service Marketplace (SMP) からダウンロードしてください。使用する場所は、製品の購入方法によって異なります。

- Sybase から直接、または Sybase 認定再販業者から購入した場合
 - a) Web ブラウザで <http://www.sybase.com/support> を指定します。

追加の説明や情報の入手

- b) [サポート] > [EBFs/Maintenance] を選択します。
- c) MySybase のユーザ名とパスワードを入力します。
- d) (オプション) フィルタ、時間枠、またはその両方を選択して、[Go] をクリックします。
- e) 製品を選択します。

鍵のアイコンは、認可されたサポート・コンタクトとして登録されていないため、一部の EBF/Maintenance リリースをダウンロードする権限がないことを示しています。未登録ではあるが、Sybase 担当者またはサポート・コンタクトから有効な情報を得ている場合は、[My Account] をクリックして、「Technical Support Contact」の役割を MySybase プロファイルに追加します。

- f) EBF/Maintenance レポートを表示するには、[Info] アイコンをクリックします。ソフトウェアをダウンロードするには、製品の説明をクリックします。
- SAP の契約に基づいて Sybase 製品を注文した場合
 - a) ブラウザで、<http://service.sap.com/swdc> を指定します。
 - b) [Search for Software Downloads] を選択して、製品名を入力します。[Search] をクリックします。

Sybase 製品およびコンポーネントの動作確認

動作確認レポートは、特定のプラットフォームでの Sybase 製品のパフォーマンスを検証します。

動作確認に関する最新情報は次のページにあります。

- パートナー製品の動作確認については、http://www.sybase.com/detail_list?id=9784 にアクセスします。
- プラットフォームの動作確認については、<http://certification.sybase.com/ucr/search.do> にアクセスします。

MySybase プロファイルの作成

MySybase は無料サービスです。このサービスを使用すると、Sybase Web ページの表示方法を自分専用カスタマイズできます。

1. <http://www.sybase.com/mysybase> を開きます。
2. [Register Now (今すぐ登録)] をクリックします。

アクセシビリティ機能

アクセシビリティ機能を使用すると、身体障害者を含むすべてのユーザーが電子情報に確実にアクセスできます。

Sybase 製品のマニュアルには、アクセシビリティを重視した HTML 版もあります。

オンライン・マニュアルは、スクリーン・リーダーで読み上げる、または画面を拡大表示するなどの方法により、視覚障害を持つユーザがその内容を理解できるよう配慮されています。

Sybase の HTML マニュアルは、米国のリハビリテーション法第 508 条のアクセシビリティ規定に準拠していることがテストにより確認されています。第 508 条に準拠しているマニュアルは通常、World Wide Web Consortium (W3C) の Web サイト用ガイドラインなど、米国以外のアクセシビリティ・ガイドラインにも準拠しています。

注意：アクセシビリティ・ツールを効率的に使用するには、設定が必要な場合もあります。一部のスクリーン・リーダーは、テキストの大文字と小文字を区別して発音します。たとえば、すべて大文字のテキスト (ALL UPPERCASE TEXT など) はイニシャルで発音し、大文字と小文字の混在したテキスト (Mixed Case Text など) は単語として発音します。構文規則を発音するようにツールを設定すると便利かもしれませんが、詳細については、ツールのマニュアルを参照してください。

Sybase のアクセシビリティに対する取り組みについては、次の Sybase Accessibility サイトを参照してください。 <http://www.sybase.com/products/accessibility>。このサイトには、第 508 条と W3C 標準に関する情報へのリンクもあります。

製品マニュアルには、アクセシビリティ機能に関する追加情報も記載されています。

追加の説明や情報の入手